家庭数配布

令和元年度　学校だより　学校ホームページ　http://minamisyo.nagaizumi.ed.jp/

みなみっ子

長泉町立南小学校
Ｎｏ．３９
令和元年 10 月 24 日

学校教育目標　「夢のある子」　～めあてをもってがんばる子～

なかよし交流会。6・7組が南小の元気を他校に伝えてくれました。

「なかよし発表会」。**長泉町・清水町・裾野市**の小中学校の特別支援学級の子どもたちが、ウェルピアに集まり、共同制作をしたり、歌を歌ったり、ゲームをしたりしながら交流を楽しむ会です。本校の６・７組の仲間たちはどんな活動をしてきたのでしょう！

先輩と会えた～！

ウェルピアまでは徒歩で行きます。雨の中、**7組は 6 組のみんなを励ましつつ**、南小からウェルピアまでしっかり歩いていきました。レクの「猛獣狩りゲーム」では、自己紹介も笑顔ででき、マナーもバッチリで、グループ作りを楽しみました。「つながるシート」では、**自分やみんなの絵をつなげて、一つの大きな作品**を作りました。隣りの子と嬉しそうに作品を眺めるなど、ほっこりする場面が多かったです。「プレイバルーン」では、保護者も一緒にバルーンをパタパタ・フワフワ！おうちの方がいて、笑顔がさらに広がりました。

どうつなげる？

楽しさが伝わるよ！

なかよし交流会が終わり、学校に戻った教員が開口一番、「『**南小の子どもたちは落ち着いていますね**』と他の学校からほめられました！」と満面の笑顔で教えてくれました。いつも元気いっぱいの６・７組のみんなが、交流会を思い切り楽しんだこと、そして、**チームワークよく動けたこと**が、そんな評価につながっていたのでしょうね！

みんなの声

♥サイン会が楽しかったよ。知らない子とサインし合って友だちになったよ。
♥プレイバルーンでは、応援に来てくれた妹とできたんだよ。嬉しかったなあ。
♥プレイバルーンを思い切りパタパタしたよ。あれね、あんなに大きいのにとても軽いんだよ。

南駿PTA講演会。林家菊丸さんのお話を聴きました。

19日(土)に清水町地域交流センターで「南駿地区PTA教育講演会」が開催されました。講演会には、PTA会長をはじめとした保護者の方々が出席して下さいました。講師は、落語家の三代目・林家菊丸さんです。古典落語から創作落語まで多数多彩の持ちネタを持つ、関西を中心に活躍されている方です。演題は「**心を通わせるコミュニケーション　～3つの気の大切さ～**」でした。菊丸さんは、小学校時代から弟子時代、そしてテレビ番組「笑点」の元旦放送に毎年出演するほどの全国区の落語家になるまでの経験を交えながら話してくれました。時折、落語噺を披露すると、その瞬間に会場は笑いに包まれる楽しい時間となりました。以下、お話のほんの一部をお伝えします。

◆３つの気とは、「気を読む」「気を働かせる」「気を入れる」ことです。
◆子ども時代の「怒られないように」「叱られないように」行動することは、決して悪いことではありませんよ。「気を読む」練習になるのです。これは子ども時代に大切なこと。この体験を通して、その場の雰囲気を見て、言葉や態度を微妙に変えることができるようになるのです。これができていないと、社会に出ていろいろ上手くいかないんですよねえ。
◆同じことが、落語家の弟子時代にも言えますよ。弟子時代は、師匠を怒らせないように、師匠が気持ちよく過ごせるように日々を過ごします。とても苦しいし大変です。その時は、なんでこんなこと？と思いましたものですよ。しかしですね、この経験がないと、お客様の表情、気持ちなどを考えながら噺を少しずつ変化させることができないのです。「気を読む」ことができないと、落語家はつとまりゃしません。
◆わたしくらい落語を長い間やっていれば、他のことを考えながらでも落語を最初から最後まで簡単に話せます。若い時に、考えごとをしながら話したことがあるんです。でも、そんな状態でやっても客に受けません。伝わりません。笑いも起こりませんよ。「気を入れる」ことは落語だけでなく、何にとっても大事です。
◆失敗してもいいのです。叱られることもいいのです。叱られることは、必ず後に活きるのです。でもね、叱られた後に、委縮する、すねる、いじけること、これは最悪です。これこそ、本当に叱るべきことです。
◆子どもをほめることは大事ですが、何でもかんでも誉めてはいけません。大切なのは、価値ある行動に対して、「いいことしたね」「がんばったんだね」と認めることです。
◆しゃべり上手がコミュニケーション上手？　そうとは限りませんよ。一番のコミュニケーション上手は「聞き上手」なこと。喋りが苦手な人こそ、聞き上手になりましょうよ。
◆落語家はですね、一見落語に関係のないことをたくさんやるんですよ。日本舞踊に、太鼓に、浄瑠璃、小唄・端唄(はうた)……。その直接関係のない多くのことが、その落語家の所作や力になっていくのです。